

### 第3節 横浜市戸塚地域療育センター運営事業

戸塚地域療育センターは、戸塚・栄・泉区における障害児の地域療育システムの拠点としての役割を果たすべく、センターにおける処遇内容の向上に努めました。

今年度は、10月にセンター開設20年を迎え、その記念事業で、かつての利用者の方々からのお話を伺い、地域や利用される方のニーズにさらに敏感にならなくては、と再認識しました。また、11月には横浜市長の視察があり、障害児施設の現状を見ていただきました。

平成20年度の10月に開設した戸塚地域療育センター分室「うみ」では、今年度は初めて通年での運営を行いました。

また、今年度も、利用希望者の増加に対する対策として、初診枠の柔軟な設定を行うとともに、センターの中で次のサービスを待っている保護者に対する保護者教室等を実施しました。センターが提供するサービスに関する満足度調査についても、利用児の保護者や地域の幼稚園・保育所を対象に、事業団の小児部門で統一した項目により実施しました。

さらに、事業実施3年目となる学校支援事業については、質量ともに充実に努めるとともに、担当エリアの区福祉保健センターや地域ケアプラザ等の関係機関が実施する障害児向けの事業にも協力しました。

年度別新規利用児数

(人)

年 度	元	2	3	4	5	6	7	8
新規利用	220	189	165	131	141	158	143	164
年 度	9	10	11	12	13	14	15	16
新規利用	156	148	179	225	218	266	272(17)	309(18)
年 度	17	18	19	20	21	合計		
新規利用	377(33)	363(25)	368(29)	381(30)	391(21)	4,964		

※( )は学齢児数(内数)

#### 1 横浜市戸塚地域療育センター肢体不自由児通園施設

施 設 長	石井 祐美子
定 員	40 人

戸塚・栄・泉区に在住する就学前の運動発達に障害のある児童を対象に、生活全般にわたる療育と保護者への支援を行いました。

今年度は、前年度から継続した23人の児童に加えて、新たに10人の児童が入園し、11人が退園しました。年間の通園実児童数は33人（前年度29人）でした。

主な事業内容は次のとおりです。

(1) 療育目標

児童の人権を尊重し、一人ひとりの児童が現在及び将来ともその持てる力を発揮した生活が営めるよう支援することを基本に療育にあたりました。

療育の目標は次のとおりです。

- ア 健康な体づくり
- イ 基本的な生活習慣の育成
- ウ 運動機能面の向上・発達促進
- エ 感覚・認知機能の向上
- オ 社会性の育成・コミュニケーション能力の向上
- カ 問題となる行動の軽減
- キ 保護者への支援

(2) 療育内容

- ア 原則として、2・3歳児は親子通園、継続児の4・5歳児は単独通園・親子通園併用の形態を取り、年齢・発達段階・障害等を考慮したグループによる療育を行いました。
- イ 定例的カンファレンスを通じて、個々の児童の処遇の評価と療育上の課題の整理を行い、療育内容の充実に努めました。また、通園スタッフと診療スタッフの連携を密にし、個々の児童の処遇を検討しながらチームアプローチを進めました。
- ウ 必要に応じて摂食指導を行い、診療部門との合同カンファレンスを定期的に開催しました。

(3) 保護者への支援

- ア 保護者が療育内容を理解し、療育効果が家庭においても発揮できることと、保護者の精神衛生を促進することを目的として個人面談、家庭訪問を行いました。
- イ 保護者の交流や相互理解を目的に懇談の場を設けて、保護者同士のつながりを広げました。
- ウ 保護者連絡会を年5回実施しました。保護者連絡会では通園親の会と合同で必要な知識と情報を提供しました。主なテーマは、保護者交流(2施設合同)、幼稚園・保育所、卒園児保護者の話、要望書への回答、利用契約の説明などでした。
- エ 保護者が療育に必要な知識を学習することを目的に、新入園児と継続児で分けて小人数制の保護者教室を次のとおり実施しました。また11月には、父親勉強会を実施しました。

(ア) 新入園児対象

開催月	内 容	担 当
7月	療育の基本	保 育 士
8月	運動発達の知識	医 師
9月	摂食について	理 学 療 法 士 ・ 栄 養 士

(イ) 継続児対象

開催月	内 容	担 当
6月	就学後の医療・訓練と社会制度について	医師・保育士・SW
6月	姿勢・運動の成り立ち(3歳児)	理 学 療 法 士

6月	補装具について（4歳児）	理学療法士
7月	二次的障害について（5歳児）	理学療法士
9月	感覚運動経験の大切さ	作業療法士
9月	運動発達の知識（応用編）	医師
9月	精神発達について	臨床心理士
10月	ライフステージにあわせた関わり	作業療法士
11月	療育の基本2	保育士・クラス担任
12月	摂食について（応用編）	理学療法士・栄養士

(4) 主な行事の実施状況

開催月	内 容
4月	入園式・始業式
6、7月	家族参観 休日に実施し、父親などの参加を促しました。
10月	秋 祭 り 家族とともに地域交流をする機会を設けました。
12月	おたのしみ会 日々の療育の内容を発表しました。
1、2月	家族参観 休日に実施し、父親などの参加を促しました
3月	卒 園 式

その他、日常の療育内容の広がりを考え、主に社会性の育成をねらいとして、一般交通機関などを利用した園外指導をクラス単位で実施しました。

また、月例行事として園児の誕生会を実施しました。

(5) 利用状況

ア 月別在籍児数

(人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	※33.0
新規入園児数	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
退所児数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11

※平均初日在籍児数

イ 在籍児の状況

(ア) 区別内訳

(人)

戸 塚 区	16
栄 区	9
泉 区	7
瀬 谷 区	1
合 計	33

(イ) 年齢別内訳

(人)

2 歳 児	5
3 歳 児	7
4 歳 児	14
5 歳 児	7
合 計	33
平 均 年 齢	3.7 歳

(ウ) 障害別内訳 (人)

脳性麻痺	12
運動発達遅滞	11
精神運動発達遅滞	8
ダウン症候群	2
合計	33

(エ) 入園経路 (人)

医療機関	25
区福祉保健センター	8
合計	33

ウ 退園児の進路状況 (人)

特別支援学校	7
保育園	2
知的通園へ移行	1
在宅	1
合計	11

## 2 横浜市戸塚地域療育センター知的障害児通園施設

施設長	石井 祐美子
定員	50人

戸塚・栄・泉区に在住する就学前の精神発達に障害がある児童及びその疑いのある児童を対象に、集団または個別による生活全般にわたる療育と保護者への支援を行いました。

今年度は、前年度から継続した 40 人の児童に加えて、新たに 36 人の児童が入園し、42 人が退園しました。年間の通園実児童数は、76 人（前年度 84 人）でした。

主な事業内容は次のとおりです。

### (1) 療育目標

児童の人権を尊重し、一人ひとりの児童が現在及び将来ともその持てる力を発揮した生活が営めるよう支援することを基本に療育にあたりました。

療育の目標は次のとおりです。

- ア 健康な体づくり
- イ 基本的な生活習慣の育成
- ウ 運動機能面の向上・発達促進
- エ 感覚・認知機能の向上
- オ 社会性の育成・コミュニケーション能力の向上
- カ 問題となる行動の軽減
- キ 保護者への支援

### (2) 療育内容

- ア 原則として、新入園児は親子通園、継続児は単独通園・親子通園併用の形態を取り、年齢・発達段階・障害等を考慮したグループによる療育を行いました。
- イ 定例的カンファレンスを通じて、個々の児童の処遇の評価と療育上の課題の整理を行い、療育内容の充実に努めました。また、通園スタッフと診療スタッフの連携を密にし、個々の児童の処遇を検討しながらチームアプローチを進めました。

### (3) 保護者への支援

- ア 保護者が療育内容を理解し家庭における療育効果を発揮すること、及び保護者の精神衛生面の向上を目的として、個人面談・家庭訪問を行いました。
- イ 保護者の交流や相互理解を目的に懇談の場を設けて、保護者同士のつながりを広げました。
- ウ 保護者連絡会を年 5 回実施しました。保護者連絡会では通園親の会と合同で必要な知識と情報を提供しました。主なテーマは、保護者交流（2 施設合同）、幼稚園・保育所、卒園児保護者の話、要望書への回答、利用契約の説明などでした。

エ 保護者が療育に必要な知識を学習することを目的に、新入園児と継続児で分け小人数制の保護者教室を次のとおり実施しました。また11月には、父親勉強会を実施しました。

(ア) 新入園児対象

開催月	内 容	担 当
5、6月	療育の基本	保 育 士
5月	自閉症の基本的理解	医 師
6月	心理評価の活用法	臨 床 心 理 士
9月	子どものコミュニケーションを考える	臨 床 心 理 士
10月	行動のマネージメント	保 育 士

(イ) 継続児対象

開催月	内 容	担 当
7月	学校のことを知りましょう	保 育 士 ・ S W
9月	V T R勉強会	保 育 士
11月	成人期を見通した子育て	リハセンター就労支援課長
11月	次年度に向けて語ろう (4歳児)	医 師 ・ S W ・ 保 育 士
12月	自閉症スペクトラムの支援	医 師
1月	就学に備えて語ろう (5歳児)	医 師 ・ 保 育 士 ・ S W

(4) 主な行事の実施状況

家族参観、おたのしみ会、園外指導等の行事を、肢体不自由児通園施設と同様に実施しました。

(5) 利用実績

ア 月別在籍児数

(人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	※76.0
新規入園児数	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
退 所 児 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	42

※ 平均初日在籍児数

イ 在籍児の状況

(ア) 区別内訳

(人)

戸 塚 区	36
栄 区	18
泉 区	22
合 計	76

(イ) 年齢別内訳

(人)

3 歳 児	11
4 歳 児	29
5 歳 児	36
合 計	76
平 均 年 齢	4.3 歳

(ウ) 障害別内訳 (人)

自閉症	46
精神遅滞	24
広汎性発達障害	5
アスペルガー障害	1
合計	76

(エ) 入園経路 (人)

区福祉保健センター	61
医療機関	6
他の療育機関から	5
直接来所	4
合計	76

ウ 退園児の進路状況 (人)

小学校（個別支援学級）	28
特別支援学校	6
分室へ移行	5
小学校（普通級）	1
幼稚園	1
保育所	1
合計	42

### 3 横浜市戸塚地域療育センター診療所

診療所長	半澤直美
------	------

センターの診療部門として、必要な診断・評価・治療・訓練・検査を行いました。  
 主な事業内容は次のとおりです。

#### (1) 診療

診療科目は、リハビリテーション科（週5回）、児童精神科（週5回）、耳鼻咽喉科（週1回）、小児科（週2回）の4科目です。この他に、ブレースクリニック（週1回）、シーティングクリニック（月1回）、摂食クリニック（月1回）、整形外科（月1回）を設けました。

診療科目別受診者数 (人)

月	リハ 科	児 童 精 神 科	耳 鼻 咽 喉 科	小 児 科	合 計
4月	277	161	37	160	635
5月	326	186	54	165	731
6月	447	240	70	196	953
7月	526	243	76	185	1,030
8月	334	176	71	183	764
9月	507	196	68	166	937
10月	416	223	76	201	916
11月	411	217	60	165	853
12月	357	195	46	176	774
1月	451	266	60	178	955
2月	433	251	69	152	905
3月	407	238	75	175	895
合計 (うち学齢児)	4,892 (653)	2,592 (299)	762 (4)	2,102 (186)	10,348 (1,142)
前年度	4,160	2,852	695	2,793	10,500

(2) 検査

医師の処方に基づく医学的検査を次のとおり実施しました。

(件)

種 別	件 数
一 般	212
生 理 (脳波等)	85
合 計 (うち学齢児)	297 (10)
前 年 度	286

(3) 心理指導

療育指導の一つとして、外来児、通園児及びその保護者を対象に、心理検査・心理療法・心理家族面接を行いました。

(件)

種 別	件 数
心 理 療 法	2,938
(うち心理検査)	761
合 計 (うち学齢児)	2,938 (128)
前 年 度	2,832

(4) 補装具の処方

(件)

種 別	件 数
下 肢 装 具	80
車いす・バギー	13
座位保持装置	16
補 聴 器	4
そ の 他	23 <sup>※</sup>
合 計 (うち学齢児)	136 (44)
前 年 度	133

※その他には、カーシート、保護帽が含まれる。

(5) 機能訓練

次のとおり、理学療法、作業療法、言語療法等を行いました。

(件)

月	理学療法	作業療法	言語療法	
			訓練	検査
4月	218	83	53	13
5月	229	96	73	14
6月	253	107	121	31
7月	257	120	108	25
8月	227	90	91	15
9月	258	124	93	23
10月	261	115	94	18
11月	227	111	98	22
12月	239	104	80	14
1月	277	123	91	17
2月	245	113	92	17
3月	261	113	105	20
合計 (うち学齢児)	2,952 (614)	1,299 (106)	1,099 (45)	229 (1)
前年度	3,109	1,258	1,025	257

(6) 外来グループ療育

今年度は初期療育グループ 17 グループ、実人数 110 人（前年度 126 人）に対して実施しました。

初期療育グループは、早期発見から早期療育に導入する際に必要な子どもの評価と保護者への支援を行いました。

(ア) 紹介機関

(人)

区福祉保健センター	81
医療機関	18
保育所・幼稚園	5
直接来所	4
他の療育機関	2
合計	110
前年度	126

(イ) 年齢別実人数

(人)

1 歳 児	4
2 歳 児	13
3 歳 児	64
4 歳 児	29
合計	110

## (ウ) 障害別人数 (人)

自閉症及び疑い	96
精神運動発達遅滞	10
脳性麻痺	4
合計	110

## (エ) 移行先 (人)

通園利用	46
幼稚園・保育所	32
分室	28
転居	3
その他	1
合計	110

## (7) 摂食指導

主に肢体不自由児を対象に、姿勢・口腔面の指導、食器操作、栄養指導等を行いました。また、毎月専門医による摂食クリニックを設け、肢体不自由児通園施設の在籍児を中心に延べ41人（前年度43人）に診察・摂食指導を行いました。さらに、医師、理学療法士、栄養士等関係職種によるチームアプローチを図るため、定期的なカンファレンスを開催し、児童の処遇検討を行いました。

## (8) 整形外科診療

リハセンター整形外科医の協力を得て、主に肢体不自由児に対する検診、診療を延べ46人（前年度60人）に行いました。

## (9) 利用希望児の増加への対応

ここ数年にかけて利用希望児が急増している精神発達系の初診枠数を、今年度は月23枠（未就学児21枠、学齢児2枠）とし、申込み状況に応じて柔軟に初診枠数を増やすなどの対応をするとともに、初診後の評価や初期療育グループ等に入るまで待機している保護者に対しては、講座を開催するなどの対応をしました。

#### 4 横浜市戸塚地域療育センター障害児地域巡回事業

戸塚・栄・泉区の各区福祉保健センター、児童相談所、リハセンター等と連携を図りながら、地域に根ざした早期療育システムづくりに向け、事業を実施しました。

主な事業内容は次のとおりです。

##### (1) 療育相談

障害の早期発見・早期療育を図るため、福祉保健センターと合同で乳幼児健診において発達の遅れ、又はその疑いが見られた乳幼児を対象に、療育相談を実施しました。

対象区福祉保健センター：戸塚・栄・泉区

ア 4か月児療育相談

(ア) 月別実施状況 (人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年度
実 施 人 数	2	4	3	5	3	10	7	7	7	6	7	10	71	55
当 月 新 規	2	3	3	4	2	8	6	3	3	6	4	5	49	33
	前月からの継続	0	1	0	1	2	1	4	4	0	3	5	—	—
当月相談終結	2	4	1	4	2	5	6	4	6	4	3	5	46	35

(イ) 相談終結理由 (人)

戸塚地域療育センターで療育	14
区福祉保健センターで経過観察	16
正 常 域	10
そ の 他	6
合 計	46

イ 1歳6か月児療育相談

(ア) 月別実施状況 (人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年度
実 施 人 数	6	4	4	5	3	5	2	5	4	6	5	5	54	59
当 月 新 規	6	4	4	5	3	5	2	5	4	6	5	5	54	59
	前月からの継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
当月相談終結	6	4	4	5	3	5	2	5	4	6	5	5	54	59

(イ) 相談終結理由 (人)

戸塚地域療育センターで療育	42
区福祉保健センターで経過観察	4
そ の 他	8
合 計	54

## (2) 関係機関への技術援助

関係機関技術援助として、戸塚・栄・泉区内の保育所、幼稚園、障害児地域訓練会等に職員を派遣して、療育に関する助言、情報提供等の支援を実施しました。

	派遣箇所	派遣回数	派遣職種(人)						前年度回数
			SW・PHN	PT	OT	心理	ST	指導員等	
保育所	50	101	113	0	2	0	1	15	98
幼稚園	45	77	67	0	0	0	1	31	82
地域訓練会	2	5	7	0	0	0	1	1	4
学校	6	6	1	12	7	1	0	0	8
合計	103	189	188	12	9	1	3	47	192

## (3) 学校支援事業

事業実施3年目となる、小学校の教員に対して研修やコンサルテーションを行う学校支援事業について、事業の充実に努めました。

	派遣箇所	派遣回数	派遣職種(人)						前年度回数
			SW・PHN	PT	OT	心理	ST	指導員等	
小学校	47	123	111	0	0	0	0	63	110

## (4) その他

ア 通園在籍児に対して、療育プログラムの一つである保護者への働きかけを行うため、通園スタッフと協力して家庭訪問を実施しました。

イ 通園・診療スタッフと役割分担して、センター利用児に対する幼稚園・保育所訪問を必要に応じて実施し、地域での療育が進むよう助言を行いました。

ウ 地域訓練会の母親勉強会へ職員を派遣しました。

エ 戸塚・栄・泉区内の幼稚園・保育所・地域訓練会・地域活動ホーム等の職員を対象に、療育センターの円滑な利用を図り、専門的な知識を研修する機会の提供等を目的として、「発達障害の基礎知識」及び「保護者支援について」をテーマに第17回戸塚療育セミナーを実施しました。また、横浜市幼稚園協会の各支部が実施する教員研修会への協力を行いました。

オ 担当エリア内における地域療育のシステムを構築するため、また、障害児の地域での生活を支援するため、区福祉保健センター、児童相談所等関係機関との連絡会を開催しました。

カ 地域ニーズ対応事業として、次のサービスを実施しました。

### (ア) 集団療育終了児への支援

センターの通園施設等の集団療育は、継続した複数年の療育を希望する 경우가多く、新たに集団療育が必要となる児へ提供できる枠数が不足している状況であり、就学による終了だけでなく、就学前に終了し、集団の場を地域の幼稚園等に移行していくことが必要です。しかし、これまでは、集団療育終了後は年に1~2回の

個別フォローだけであったため、保護者の情報収集や学習をする機会がなくなることから、保護者の不安が強く、終了希望が少ない状況でした。

このため、個別フォローの他に、保護者教室や懇談会の開催（あわせて年6回）といった保護者へのサービスを実施することで、生活面や就学に向けての保護者の不安が軽減し、就学前の終了がサービスの選択肢の一つになるよう支援を実施しました。

(イ) 並行通園児への支援

センターを利用する児が並行して通う幼稚園等との連携や協力関係をより深めるために、適切な時期での訪問（年50件）や園からの来所による支援（年56件）を行い、園や保護者のニーズに的確に応えるよう努めました。

(ウ) 低年齢肢体不自由児への支援

早期発見体制の整備によって、低年齢期にセンターを利用開始した児の保護者は、育児そのものの不安や障害に対する不安が強く、また、地域にはこのような不安を抱える保護者が集う場も少ないのが現状です。このため、育児支援、保護者同士のつながり、遊びの場の提供、専門職からの情報提供等のプログラムを月1回集団で実施し、保護者の育児への不安の軽減、保護者同士のつながりに努めました。

キ 担当エリアの関係機関で実施している、障害児を対象とした事業への協力を行いました。今年度は、戸塚区内の地域ケアプラザで実施した学齢障害児の放課後及び余暇支援事業プログラムに対する企画や当日参加等の協力を行うとともに、泉区で実施している「ペアレントサポート」、栄区で実施している「親子教室」「学齢障害児放課後支援事業」等に協力しました。また、栄区の公立保育園の非常勤職員を対象とした研修会にも協力しました。

## 5 横浜市戸塚地域療育センター分室

定員(日々)	48人(12人)
--------	----------

戸塚地域療育センター担当エリアにおける集団療育候補児の増加に対応するため、平成20年10月に戸塚区上柏尾町に開所しました。

戸塚・栄・泉区に在住する就学前の障害のある児童を対象に、利用児が並行利用する幼稚園、保育所と連携・協力しながら、集団による療育と保護者への支援を行いました。

今年度は、通年の療育グループを6クラス36人、初期療育グループを4クラス24人、後半の療育グループを2クラス12人実施し、実利用人数は63人でした。

主な事業内容は次のとおりです。

### (1) 療育目標

児童の人権を尊重し、一人ひとりの児童が、現在及び将来ともその持てる力を発揮した生活が営めるよう支援することを基本に療育にあたりました。

療育の目標は次のとおりです。

- ア 健康な体づくり
- イ 基本的な生活習慣の育成
- ウ 運動機能面の向上・発達促進
- エ 感覚・認知機能の向上
- オ 社会性の育成・コミュニケーション能力の向上
- カ 問題となる行動の軽減
- キ 保護者への支援

### (2) 療育内容

ア 原則として親子利用により、年齢・発達段階・障害等を考慮したグループによる集団療育を行いました。

イ 幼稚園等との並行通園児に対し、それぞれの園との療育上の連携を図りました。

### (3) 保護者への支援

ア 保護者が療育内容を理解し家庭における療育効果を発揮すること、及び保護者の精神衛生面の向上を目的として、個人面談・家庭訪問を行いました。

イ 保護者の交流や相互理解を目的に懇談の場を設けて、保護者同士のつながりを広げました。

ウ 保護者が療育の方法や障害について、必要な知識を深めていくための場として保護者教室を開催しました。

(4) 利用実績

ア 月別在籍児数

(人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	※48
新規入園児数	34	0	0	12	0	0	12	0	0	0	0	0	58
退所児数	0	0	12	0	0	12	0	0	0	0	0	36	60

※4～6月、7～9月は初期療育グループをそれぞれ2クラス12人ずつ実施。

10月～3月は6か月間の療育グループを2クラス12人実施（初期療育グループ利用9人含む）。

イ 在籍児の状況（利用実人数63人）

(ア) 区別内訳 (人)

戸塚区	35
栄区	10
泉区	17
保土ヶ谷区	1
合計	63

(イ) 年齢別内訳 (人)

3歳児	3
4歳児	24
5歳児	36
合計	63
平均年齢	4.5歳

(ウ) 障害別内訳 (人)

自閉症	39
広汎性発達障害	11
アスペルガー	13
合計	63

## 6 職員研修等

### 学会等派遣研修

専門職員として必要な最新の技術を習得するとともに、研究の成果を発表するため各種学会等へ次のとおり参加しました。(学会等数：27、派遣人数：延べ47人)

	学 会 名	開催月	開催地	参 加 人 数
1	乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム2009	5月	福岡県	臨床検査技師 1人
2	日本理学療法学術大会	5月	東京都	理学療法士 1人
3	日本社会福祉士会全国大会・社会福祉学会	5月	熊本県	ソーシャルワーカー 1人
4	日本心理臨床学会	5月	東京都	臨床心理士 1人
5	日本リハビリテーション医学会	6月	静岡県	医師 1人
6	日本作業療法学会	6月	福島県	作業療法士 1人
7	日本小児児童精神神経学会	6月	東京都	看護師 1人
8	よこはま発達クリニック夏のセミナー	8月	東京都	保育士等 3人
9	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー	8月	神奈川県	保育士等 3人
10	自閉症カンファレンス NIPPON 2009	8月	東京都	保育士等 6人
11	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	8月	愛知県	理学療法士等 2人
12	摂食指導(基礎・実習)講習会	9月	東京都	保育士 1人
13	日本特殊教育学会	9月	栃木県	児童指導員等 3人
14	日本重症心身障害学会	9月	新潟県	保育士 1人
15	日本児童青年精神医学会総会	9月	京都府	ソーシャルワーカー等 4人
16	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー	10月	神奈川県	保育士 1人
17	日本LD学会	10月	東京都	児童指導員 1人
18	日本保育園保健学会	10月	岩手県	看護師 1人
19	発達協会秋のセミナー	10月	東京都	保育士等 6人
20	日本感覚統合学会 入門講習会	10月	東京都	児童指導員 1人
21	日本聴覚医学会	10月	神奈川県	言語聴覚士 1人
22	明治安田こころの健康財団集中講座	10月	東京都	児童指導員 1人
23	かながわ医療的ケア実務者研修	11月	神奈川県	保育士 1人
24	日本こども虐待防止学会	11月	埼玉県	ソーシャルワーカー 1人
25	日本感覚統合学会研究大会	12月	岡山県	作業療法士 1人
26	幼児通園療育職員講習会	1月	東京都	児童指導員 1人
27	日本発達心理学会	3月	兵庫県	臨床心理士 1人

## 7 実習生等の受入

リハビリテーションの専門機関として、専門職員の育成に貢献するため、次のとおり実習生・研修生の受入れを行いました。

職 種	期 間	団 体 名	人数	担当課
保 育 士	21.7.27～21.7.31	地域療育センターあおば	1人	通園課
	21.8.31～21.9.15	東洋英和女学院大学	1人	通園課
	21.8.31～21.9.15	関東学院大学	1人	通園課
	21.9.1～21.9.11	東横学園女子短期大学	1人	通園課
	22.3.5～22.3.19	聖ヶ丘教育福祉専門学校	2人	通園課
	21.11.16～21.11.20	こども青少年局	14人	通園課
理学療法士	22.2.22～22.2.24	東京衛生専門学校	2人	診療課
	22.2.25～22.2.26		2人	
作業療法士	22.2.24	横浜リハビリテーション専門学校	1人	診療課
医 師	21.10.29	県立こども医療センター	1人	診療課
看 護 師	21.12.22	横浜医療センター附属横浜看護学校	2人	診療課
教 員	21.8.24～21.8.25	保土ヶ谷養護学校	1人	通園課
	21.8.24	本郷台小学校	2人	通園課
	21.8.17～21.8.21	三ツ境養護学校	1人	通園課

## 8 その他

### (1) 運営協議会

センターの運営に関して、利用者及び地域のニーズを反映させるとともに、地域の障害児療育に関わる事業推進を図るために必要な協議を行いました。

#### ア 第1回

- ・開催日 平成20年10月27日（火）
- ・委員数 23人
- ・出席者数 21人
- ・議 題 平成20年度横浜市戸塚地域療育センター事業報告  
平成21年度横浜市戸塚地域療育センター利用状況  
委員からの提案・意見等

#### イ 第2回

- ・開催日 平成21年3月5日（金）
- ・委員数 23人
- ・出席者数 20人
- ・議 題 平成21年度横浜市戸塚地域療育センター利用状況  
平成22年度通園施設・分室利用予定  
平成22年度横浜市戸塚地域療育センター事業計画  
満足度調査の結果  
委員からの提案・意見等

## (2) 防災対策

自衛消防組織に基づき全館の利用者を対象に、昼間時避難訓練を実施しました。また、通園施設において、通園児・保護者等を対象とした避難訓練を毎月実施しました。

### ア 自衛消防組織

自衛消防隊長 (戸塚 センター長) 副隊長 (東戸塚地区 センター館長) 副隊長 (東戸塚地域 ケアプラザ所長)	— 通報連絡班 (各センター職員)	: 消防機関への連絡、館内放送、障害物の除去
	— 第1 避難誘導班 (療育センター通園課)	: 療育センター通園児の避難誘導
	— 第2 避難誘導班 (療育センター診療課)	: 療育センター外来者の避難誘導
	— 第3 避難誘導班 (地区センター職員)	: 地区センター来所者の避難誘導
	— 第4 避難誘導班 (地域ケアプラザ職員)	: 地域ケアプラザ来所者の避難誘導
	— 第5 避難誘導班 (地域ケアプラザ職員)	: 地域ケアプラザ多目的室来所者の避難誘導
	— 第1 消火班 (療育センター管理課 相談部門職員)	: 消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (主に療育センター/月曜日については館内 全体を対象とする)
	— 第2 消火班 (地区センター職員)	: 消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (主に地区センター/土・日については館内 全体を対象とする)
	— 第3 消火班 (地域ケアプラザ職員)	: 消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (主に地域ケアプラザ/土・日については館 内全体を対象とする)
	— 救護班 (療育センター診療課・地 区センター・ケアプラザ職員)	: 救急隊と連絡をとり、負傷者に対し応急手当 を行う

### イ 消防訓練

実施年月日	内 容	参加者
平成21年9月18日	全館利用者・職員を対象とした自衛消防組織 に基づく昼間時消防訓練	79人
平成22年3月12日		72人

## (3) 見学者の状況

今年度は、合計で36人の見学がありました。

また、11月には横浜市長の障害児施設視察がありました。

(人)

福祉関係者	教育関係者	行政関係者	そ の 他	合 計	前 年 度
23	8	5	0	36	28